

大島水産指導所

一 瀬魚漁場調査試験並漁業技術指導

ニ 趣旨

本郡沿岸はいたるところ瀬魚の好漁場に富み、その資源も豊富であると言れながら、しかし本郡での瀬魚漁業は不振の現況である。当所に於ては本漁業の振興策として、前年度より継続事業の底刺網（三重網）漁業と一本釣漁業を併用して漁場の調査並に資源量の調査を行ひ

- ① 最適漁具の選定
- ② 好漁場の発見
- ③ 漁具漁法の改良並に指導

に当る目的で本試験を実施した。（今年度は使用船の都合上底刺網のみを以て瀬戸内水道の漁場調査に重点をおいた）

三 調査概要

調査区域 瀬戸内水道
 調査期間 自昭和30年4月30日～昭和30年5月15日
 調査船 探漁丸 1.47馬 12HP
 使用漁具 三重網 1艘（24把）アミラン系網7把、綿糸網17把

四 経過

操業月日	時刻	天候	気温	風向力	水温	波浪	潮流向	漁場名	漁獲物
① 投網 4.30	10.20	0	23.5℃	SE 1	23.4℃	1	急	蘇前湾	
揚網 5.1	2.40	BC	22.8	W 2	23.6	3	"	"	1
② 投網 5.9	17.30	0	22.8	NW 1	22.3	1	緩	嘉鉄 6.5K	
揚網 5.10	6.30	JL	22.0	S 1	23.4	1	"	"	
③ 投網 5.14	18.10	BC	22.0	S 1	23.5	1	"	" 7K	
揚網 5.15	7.00	BC	23.1	SSE 1	22.3	1	"	"	

五 漁具の構造（三重網一反分）

中網 アミラン系 2/0 D / 2本合 2.5寸目 54目樹
 長さ22.5尋を4割8分強縮縮し、1尋3尺位立上げ
 外網 アミラン系 2/0 D / 8本合 9寸目 9目樹
 中網4目毎に取うける（4割4分）
 浮子網 標呂繩3子撻、2分5丁 / 1.5尋のもの2株（目通し夫）
 浮子 桐製 長4寸8分、厚8分高さ1寸2分 27個
 沈子網 標呂繩3子撻至3分、1.25尋2株（目通し夫）
 沈子 瀬戸焼50号大40個

を 考 察

本年度も前年と同じく年間を遂げ操業調査実施の計画であつたが、三回の操業の中止したので詳細に考察出来なかつた。前年水道内に於て実施した結果よりして見れば、水道内は至る所さんご藻によつて型作られて居る爲操業にも相当無理を感じられるが、外海に面した地域に於ては、魚類も多く又底質も稍好転するので、三重網としての採魚目的が達せられるものと思考する。

鯖一本釣漁業試験

趣 旨

11月1日より実施した東支那海、海洋観測と併行して全海区の鯖漁場の探査と魚群の濃淡及び漁獲率、生体調査等を実施し、漁況を究明せんがため、鯖釣漁業試験を兼ねて実施した。

一般漁況

本航海は鯖一本釣漁業試験のため餌料として冷凍イワシ、冷凍サンマ15箱、碎氷を積み東支那海海洋観測を実施しつゝ、襄林漁区515、505海区の漁場調査をなすつもりであつたが、天候険悪なため、調査出来ず本船は波浪にもよられつゝ観測を続行し古仁屋港に入港した。

次回の調査海区は11月11日5133 (N28°-46'E 124°~45')より南下し、襄林漁区504海区の魚群の探査に従事した。全海域は水温21.0度~21.5度を示し、20時魚探機の記録紙上に魚群が鮮明に現れられたが、魚群の浮上なく全然漁事はなかつた。当位置は大体N28°20'E 124°41'附近とみられる。その漁場より南下し(N28°11'E 124°45')の推測位置の漁場には、当業船20隻が操業していた。その間に於いても1は1は魚群の記録がみられたが、浮上しなかつた。本船もその漁場に於て22時頃から操業を開始したが、餌付き余りかんばしくなく、1晩操業で22貫の漁事をなした。

群は淡く周期的に小群が浮上したが遅く、午前3時頃よりは全然浮上はみられなかつた。魚体は体長31cm~34cm、体重460g~500g程度のもものが多くみられた。本調査は1晩操業で餌料なくなり、漁業試験を中止した。尚漁況については無線連絡にて当業船に急報した。

考 察

昨年の全季鯖漁況と比較してみると漁場は殆んど変わらず、水温は21度~21.5度で昨年とほぼ同じ値を示しているが、漁獲率が低く、昨年は1晩の漁事は600×程度で今回は22×にすぎなかつた。

しかし1晩操業の調査ではあつたが、余りかんばしくない漁況であつた。

照南丸での操業は始めてで、本船は可変式フロペラを装備しているため、前進、停止、後進が短時間にて行なわれるので操業が迅速に出来るので操業に非常に有利であつた。